

キツリフネソウが咲きました

今年もまた、キツリフネソウの可憐な花が咲きました。この花は、杉並区成田東1丁目の夫婦が、30年以上に渡って大切に育ててきたもので、多くの方々もこの花が咲くのを楽しみにしています。

キツリフネソウは、やや高い山岳地の湿地の木陰や水辺などに分布する野草です。そのキツリフネソウとこの夫婦との出会いは、もう30年以上昔のことになります。奥様が、知り合いから譲り受けた一粒の種がその始まりで、いまでは、玄関に続くアプローチなどで、たくさんの花を楽しめるようになりました。

今年も例年同様4月の初めに、前年の種が庭のあちこちに飛び散った種から発芽し、それが双葉に育ったものを庭や玄関までのアプローチに定植しました。この定植の作業をするのは、いつも夫婦二人です。ご主人は、昨年11月に病で入院し、今でもリハビリに通う状態ですが、今年の定植作業を行う際も、奥様の傍らには、ご主人が寄り添い、「あそこにあるぞ。」などと声を掛けながら行いました。また、ご主人の病のことを聞いた仲間の多くが、作業を手伝い、例年同様の花が見られるようになりました。



定植の後、雨が少ない影響なのか、花の開花は例年に比べ遅く、6月中旬になってようやく開花が始まりました。しかし、花一輪一輪は、いつもより大きくて見応えがあります。また、ご主人の病のこともあり、例年より多くの方が、花の開花を気にかけていて、開花と同時に多くの来客があったそうです。そして、このキツリフネソウを通じた顔馴染みとの笑顔の交流、そして多くの励ましの言葉によって、夫妻は元気付けられているそうです。

[問い合わせ先]

総務部広報課 : TEL 3312-2111